

県外派遣報告書		(一社) 栃木県バスケットボール協会 審判部	
大会名	令和3年度 全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会	開催地	新潟県新潟市
報告者名 (所属連盟)	栗原 萌音 (高体連)	派遣期間	令和3年 8月 9日(月)～11日(水)
<p>【審判研修会内容】</p> <p>●IHを開催するにあたり、割当担当の有澤氏と、TO主任の松永氏から以下のお話がありました。</p> <p>【2021IHについて(有澤氏)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IHは全国各地から審判員が集まり、コート内外で交流を深めることによって得た情報や、経験したことを、各地にフィードバックすることができる大会である。 ・今年度はコロナ禍のため、例年実施している研修会やゲームの評価を行わない。(クルー間で行う。) ⇒自身の安全を最優先に大会に従事する。 ・2年ぶりのIH開催ということで、心身ともに万全な状態で長岡入りすることを願う。 ・コロナ禍であることを十分に考え、不要の外出・外食は控える。 ⇒大会期間中は周りから見られているということを十分意識した言動を心がける。 <p>【PGCについて(有澤氏)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新潟県内の研修会で、県内審判員の方と共有した事項。 ・自身がIHを成功させるという主体的な取り組みをする。 ・高校生のスピードにマッチした走力(スプリント・持久力)が最低限求められる。 ・正しい判定の裏付けは、メカニクスやIOTのベーシックから。 <p>上記3点を徹底することを、PGCで確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大会共有事項 ・処置ミスゼロに向けて ⇒CCを中心に、どう取り組めばいいか話し合う。 ・トラベリングについて ⇒ルールが変わったわけではないが、ステップ(映像を確認)を意識しているかを再度確認する。 ・ショットの見極め(FUL) ⇒プロテクトシューター・キックアウト・アクティングなどをしっかりと見極める。 ・RFG(含インティグリティ) ⇒宇田川JBA審判委員長より詳しく話がある。 <p>上記4点を大会共有事項として、クルーで確認してからゲームに臨む。</p> <p>【TOクルーとの連携(松永氏)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナの影響で、講習会が全て中止になってしまった。 ⇒TOとのコミュニケーション不足や、ミスが起こることを想定してゲームに臨む。 ・40分前にTOミーティングを行う ⇒TOの生徒とコミュニケーションを取り、緊張をほぐしてあげられるようにすると良い。 <p>●JBA審判委員長の宇田川氏より、以下の4点についてお話がありました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バスケットボールの国内状況について <ul style="list-style-type: none"> ・男子の代表戦が地上波でLIVE放送されている ⇒バスケットボールが注目されていることを自覚して取り組んでいく。 2. コロナ対応について <ul style="list-style-type: none"> ・北海道での事案・長岡市内でもクラスターが発生していたことを踏まえて： ⇒審判員が元での感染は絶対に避けるうえで、様々なケースを想定し、該当ケースがあれば直ぐに報告・連絡・相談をする。 3. インティグリティとしての暴力暴言根絶の取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> ・IHは全ての試合をLIVE配信する(インハイTV) ⇒無観客で行われるため、見苦しい振る舞いは特に大きく目立ってしまう。 <p>※インティグリティに関しては、ルールに則って的確に取り上げていく。</p> 4. 抗議の取り扱いについて <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には抗議については採用しない ⇒処置ミスゼロを目指して、全審判員で取り組んでいく。 5. トラベリングについて <ul style="list-style-type: none"> ・ゼロステップをよく確認する。そのうえで、明らかなトラベリングはコールしていくようにする。 			

県 外 派 遣 審 判 ミ ー テ ィ ン グ 記 録 表

審判員名	栗原 萌音	CC	鈴木 宏 氏
カード	大阪桐蔭 vs 鳥取城北	U2	西 理恵 氏
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回戦ということもあり、ゲームはじめの基準作りを大切にする。 ・ インサイドのプレイヤーに対して、3人で協力して目を離さないようにする。 ・ ゲーム中にアイコンタクトをし、ベンチやプレイヤーの共有を出来るようにする。 			

審判員名	栗原 萌音	CC	岸本 祥也 氏
カード	聖和学園 vs 明星学園	U1	鈴木 誠 氏
<ul style="list-style-type: none"> ・ チームやプレイヤーの特徴について予測しクルーで目を当てているようにする。 ・ メカニクスの確認をし、ゲーム中のアイコンタクトを大切にする。 ・ TOとの協力、ミスがないように常に確認をしながら丁寧にゲームを進める。 			

感想・県内審判員へ伝えたいこと

はじめに今回新潟IHに派遣させていただいた事、梶審判長はじめとする県内審判員の皆様に感謝申し上げます。初めてIHに参加させていただいて、審判ではもちろん、県外の方々との関わる機会があり、2日間良い経験をさせていただきました。

また、コロナ禍のなかではありましたが、新潟県の皆様にはたくさんのご配慮を頂きました。ありがとうございました。

IHでは、判定力やプレゼンテーションなど細かい所まで追及し上級審判員として自分らしさをもってレフェリングすることが大切だと感じました。また、ベンチやクルーとのコミュニケーションの取り方の難しさを感じ、私自身の課題を見つけることが出来ました。

これらのことを、今後の審判活動に活かし、上級審判員として自覚をもってこれからも活動をしていきます。

本大会の派遣に関しまして、お世話になりました全ての方々に感謝申し上げ、派遣報告とさせていただきます。ありがとうございました。